

Passion for Paralympics

パラリンピックを支えるオットーボックのテクニカルサポート

オットーボック・ジャパン株式会社

佐竹 光江

オットーボック社は 1988 年ソウル大会より、夏季・冬季パラリンピック大会の期間中に参加選手が競技で使用する義肢、装具、車いす等の機器を修理するテクニカルサポートを提供しています。パラリンピックでは選手が使用する機器が重要な役割を果たしています。そのような機器に不具合が生じると最悪の場合は競技に参加できない恐れがあります。また、選手村内などで使用する日常用の機器に不具合が発生して競技に集中できなくなることもあります。

オットーボックはオフィシャルサービスプロバイダーとして、全ての選手に最高のパフォーマンスを発揮してもらうため、競技用だけでなく、日常用の機器の修理を大会期間中に無償で提供しています。

2016 年のリオ大会では、義肢装具士、車いす技術者、溶接のスペシャリスト等、29 ヶ国から派遣された 100 名のチームで修理を実施しました。総修理件数もロンドン大会より 346 件多い 2408 件になり、134 ヶ国、1,162 名の選手にサービスを提供しました。日本からも技術者 2 名とレセプション 1 名がチームに加わり、24 時間体制でサポートを行いました。私もレセプションニストとして参加しました。

選手村内の修理センターは朝 7:30 から夜の 11:00 までオープンし、選手からのリクエストに応えました。選手からの依頼は義肢、装具、車いすだけでなく、開会式の車いすの聖火ランナーが聖火を運ぶためのホルダーの製作や砲丸投げ、やり投げ用の椅子を競技の規則に合わせるために加工するなど多岐にわたりました。

毎日、選手のリクエストに応え、修理に追われる忙しい毎日でしたが、修理が完了した後の選手の笑顔に励みに仕事に臨みました。選手の中には、何度も足を運んでくれる選手もいて、選手村内で会うと声をかけてくれる選手もいて、修理サービスという技術を超えた選手との一体感を感じる毎日でした。今回はレセプションニストとしてパラリンピックに参加できたことで各国の選手と触れ合うという大変貴重な経験をすることができました。

